

第17回神奈川県障害者スポーツ大会における新型コロナウイルス感染症 予防対策実施方針

令和 年 月 日

大会事務局：公益財団法人神奈川県身体障害者連合会

神奈川県障害者スポーツ大会事務局である公益財団法人神奈川県身体障害者連合会では、第17回神奈川県障害者スポーツ大会について、令和2年5月14日（令和3年11月5日改訂）に公益財団法人日本パラスポーツ協会と公益財団法人日本スポーツ協会が協同して発行した「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」や中央競技団体におけるガイドライン等を参考にして、新型コロナウイルス感染症対策を以下のとおり講じることといたします。

なお、本実施方針は、現段階で得られている知見等に基づき作成しています。今後の知見の集積及び県内の感染状況を踏まえて、逐次見直すことがあり得ることに御留意をお願いします。

基本方針（事前通知・対策・対応）

◆事前通知の徹底

大会の参加者や運営スタッフに対し、「第17回神奈川県障害者スポーツ大会における新型コロナウイルス感染症予防対策実施方針」を通じて感染予防対策について事前に周知するとともに、【別紙3】第17回神奈川県障害者スポーツ大会「体調チェックシート」に大会1週間前から直前までの体調を記入（検温・咽頭炎の有無等）することを依頼する。また、対策・対応の内容を大会の当日に事務連絡や会場内へ掲示するなどして周知を徹底する。

◆観客等の制限

第17回神奈川県障害者スポーツ大会会場に入場できるのは次の者に限る。

- ①大会運営スタッフ
- ②各市町村担当者
- ③大会参加選手
- ④大会参加選手の介助者（※必要最小限の人数）

※介助者については、個人で取りまとめ、事前に大会事務局に提出する。

※事前に大会事務局に提出のない者については、基本的に入場を認めない。

◆開会式等

総合開会式は新型コロナ感染症まん延防止の観点より開催しないこととする。また、各競技会での開会式については、整列は行わず、できる限り簡素化する。

◆リレー種目の中止

陸上競技会及び水泳競技会で実施していたリレー種目については、行わないこととする。

◆感染予防のための基本的な対策

感染予防の対策として以下の①～③を実施する。

- ①咳エチケット、マスク着用の徹底

※競技中については、マスクを外してもよいものとし、管理は自己管理とする。

②こまめな手洗い・アルコール等による手指消毒の徹底

③検温・体調管理

※大会開催中は徹底して実施するとともに、必要な備品等は事前に揃えておく。

また、具体的な対策としては、【別紙1】のとおり実施し、参加者向けチェックリストを【別紙2】のとおりとする。

◆クラスター発生防止のための対策

クラスター発生防止策として以下の①～③を実施する。

①会場の換気

②ソーシャルディスタンスの確保

③近距離での会話や発声の抑制

※環境の設定や事前通知を徹底する。

◆感染が疑われる症状が出た場合を想定した対策（準備事項）

①自治体の衛生部局等とあらかじめ相談しておき、対応について予め決めておく。

②個人情報の取扱いに十分注意しながら、参加者より得た情報（参加申込書、【別紙3】「体調チェックシート」等）について、期間（少なくとも1ヶ月以上）を定めて保存する。

◆感染が疑われる症状が出た場合の対応

①大会開催中に参加者より、感染が疑われる症状の報告等があった場合は、【別紙4】のとおり実施する。

②大会終了後、7日以内に感染発症の報告を受けた場合は、関係者へ対して速やかに報告し、情報共有する。

◆大会開催判断について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、以下の状況となった場合、大会開催可否について検討する。

①新型インフルエンザ等特別措置法に基づく緊急事態宣言が発令された場合。

②神奈川県独自の緊急事態宣言等の発令またはイベント開催自粛要請がされた場合。

③神奈川県内医療機関の新型コロナウイルス感染症患者受け入れが対応不可となった場合。

④大会に参加している者及び大会運営に係る者に新型コロナウイルス感染症感染者が発生し、大会運営に支障をきたす、またはその可能性が想定される場合。

⑤その他新型コロナウイルス感染症に起因する事象により、大会開催が困難と想定される場合。

<参考資料>

○公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本パラスポーツ協会

- ・『スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン』（令和3年11月5日改訂）

○神奈川県立スポーツセンター

- ・『県立スポーツセンター 新型コロナウイルス感染拡大防止対策ガイドライン』（令和4年8月1日）

○一般社団法人日本フライングディスク協会

- ・『フライングディスク競技における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン ver.4.0(令和3年1月15日)』

○一般社団法人日本身体障害者アーチェリー連盟

- ・『「主催競技会」再開に向けた感染拡大予防ガイドライン』（令和2年8月6日）

○公益財団法人全日本ボウリング協会

- ・『新型コロナウイルス感染症予防策ガイドライン』（令和4年11月23日）

○一般社団法人日本パラ陸上競技連盟

- ・『新型コロナウイルス感染予防ガイダンス』（令和3年1月23日）

○一般社団法人日本パラ水泳連盟

- ・『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する水泳活動のガイドライン』（令和3年1月30日）

○一般社団法人日本知的障害者水泳連盟

- ・『競技活動再開ガイドライン』（令和2年6月）

○一般社団法人日本知的障がい者卓球連盟

- ・『新型コロナウイルス感染症対策 ガイドライン』（令和3年3月15日）

○一般社団法人日本肢体不自由者卓球協会

- ・『NTC 利用再開における COVID -19 対策ガイドライン』（令和3年4月25日）

○一般社団法人日本ボッチャ協会

- ・『新型コロナウイルス感染症に伴うボッチャ活動再開指針』（令和2年10月2日）

具体的な対策

1 一般的な事項について

- 感染防止のため主催者が実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理し、チェックリスト化したものを適切な場所（イベントの受付場所等）に掲示する。
- 各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認する。
- 障がい者や高齢者など利用者の特性にも配慮する。
- 万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、参加当日に参加者より提出を求めた情報（体温チェックシート）について、保存期間（約1ヶ月）を定めて保存する。
- 大会終了後に参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や、地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応指針について、施設の立地する自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておく。

2 大会参加募集時について（主催者が参加者に求める感染拡大防止のための措置）

- 参加者が以下の事項に該当する場合は、参加の見合わせを求める。
 - ・体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - ・【別紙3】第17回神奈川県障害者スポーツ大会「体調チェックシート」の8つのチェック項目において、1つでも該当する場合
- マスクを持参する。
（参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用する）
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する。
- 他の参加者、主催者スタッフ等との距離【できるだけ2mを目安に（最低1m）】を確保する。
※障がい者の誘導や介助を行う場合を除く。
- 大会中に大きな声で会話、応援等をしない。
- 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従う。
- 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、大会事務局に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告する。

3 当日の参加受付時について

- 混雑の緩和に向けて以下の方法で受付を行う
 - ・障がい福祉施設等の団体においては「体調チェックシート」を取りまとめ、内容を確認後、受付に提出する。
 - ・特別な理由により、障がい福祉施設等の団体で取りまとめできなかった選手については、担当者が受付に報告する。
 - ・検温については、実施場所を複数箇所用意する等、混雑の緩和に努める。
- 受付窓口には、手指消毒剤を設置する。
- 発熱や軽度でもあっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように、貼紙等により注意を促す。
- 人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽する。
- 参加者が距離を置いて並べるように目印の設置等を行う。
- 受付を行うスタッフには、マスクを着用させる。
- 参加者から体調チェックシートの提出を求める。
- 会場入口にて検温を行い、37.5℃以上の発熱がある時は【別紙4】のとおり対応する。

4 大会参加者への対応について

□マスク等の準備

- ・参加者がマスクを準備しているか確認する。
- ・参加の受付・着替え・表彰等の競技を行っていない間については、マスクの着用を求める。
※なお、競技中のマスクの着用は参加者等の判断によるものとする。
- ・マスク着用による熱中症（※）について注意喚起する。
※マスク（特に外気を取り込みにくいN95などのマスク）を着用して運動やスポーツを行った場合、十分な呼吸ができず人体に影響を及ぼす可能性があることや、熱放散が妨げられることで熱中症のリスクが高くなることを周知する。
また、息苦しさを感じた時はすぐにマスクを外すことや休憩を取る等、無理をしないことについても周知する。

□大会参加前後の留意事項

- ・競技会の前後のミーティングにおいても、三つの密を避ける。
- ・会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮する。
- ・競技会前後での懇親会の開催を控える。
- ・公共交通機関や飲食店等を利用する場合は、分散利用する。

5 主催者が準備すべき事項について

□洗面所・手洗い場所

- ・トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒する。
- ・手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する。
※手洗いは30秒以上等の掲示をする。
- ・手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を必要に応じて用意する。
- ・手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意する。
- ・換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮する。

□更衣室、休憩・待機スペース等

- ・広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける。
※障がい者の介助を行う場合を除く。
- ・ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じる。
- ・複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、いす等）については、こまめに消毒する。
- ・換気扇は常に回す。換気用の小窓をあける等、換気には配慮する。

6 飲食物の提供時について

□参加者（ボランティア等）が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うように声を掛ける。

□飲料については、ペットボトル・缶や使い捨ての紙コップで提供する。

□飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させる。

7 観客の管理について

- 観客同士が密な状態にならないように、必要に応じ、事前に観客席の数を減らすなどの対応をとる。
- 大声での声援を送らないことや会話を控える。
- 会話をする場合にはマスクを着用すること等の留意事項を周知する。
- 入退場時の密集回避（時間差入退場）を行うなどする。

8 競技会場について

- 室内で実施する場合には、換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行う。
- 換気設備がある場合には、適切に運転させる。
- 定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行う。
- 寒冷な場面では室温が下がらない範囲で常時窓開けすることや、乾燥する場面では湿度 40%以上を目安に加湿する。

9 ごみの廃棄

- ゴミ（お弁当等）については、各自で責任を持ってゴミを持ち帰ること。

10 各競技特性における感染症予防策

○フライングディスク

- ディスクは、使用する前にアルコール消毒を実施する。
- 選手はディスクを使用する前に可能な限り、手指にアルコール消毒を実施する。
- 審判員・大会運営スタッフは、選手にディスクを渡す際は、手袋を着用する。

○ボウリング

- 競技開始前の挨拶では、握手はしない。
- ハンドタッチは禁止とする。
- ボールを拭くタオルは可能な限り各自のものを使用する。
- スコアカードを記入する鉛筆、ペンは各自で用意する。
- 選手はコンソールモニターには触らない。（次のゲームへ進む場合は、大会運営スタッフを呼ぶ）
- 競技スケジュールやその他競技上、許容されうる場合にはボックス内の人数を減らしてシフト制にする。
- 他選手の競技用具には触れない。（スペアボールを渡すなど）
- 競技中もできる限りマスクを着用する。
- 競技終了後は必ず手洗いをし、発生したごみは必ず各自で処分する。

○アーチェリー

- シューティングライン上で1人当たり2m（最低でも1m以上）の間隔を確保できるように、会場の環境や安全を考えて標的配置を決定する。
- 原則、一的一選手（+介助者）とし、的と的との間、シューティングライン上ではできる限り2m（最低でも1m以上）の間隔を確保する。
- 行射時に立ちで向かいあわせにならないように可能な限り留意する。
- スコアカードを挟むバインダーは共有せず、1人1枚ずつ採点相手のものを競技終了まで管理する。
- 審判員が矢の判定で呼ばれたときは、選手を標的から遠ざけて、距離を確保する。
- 矢取りは特定の代理人による矢取りを行う。代理人はマスクと手袋を着用する。（なお代理人は一日を通して可能な限り特定の選手1人のみを担当、複数の選手の担当はしない）
- 筆記用具等の使いまわしはしない。

□スコアカードを使用する場合は、介助者を除く他人との交換は行わない。

○陸上

- 2～3組ずつスタート地点に誘導し、待機場所にゆとりを持たせる。(ソーシャルディスタンスの確保)
- 1レーン置きに競技者を配置するのではなく、全てのレーンに配置してもよいが、スタート位置やフィニッシュ後に留めることを短時間とする。
- 待機場所における競技者同士のソーシャルディスタンスを確保し、競技役員を促す。
- 投てき器具やすべり止め(炭酸マグネシウム)の共用禁止にする必要はないが、終了後の手洗い・洗顔の徹底を呼び掛ける。また、試技の前後に手指の消毒を実施し、競技中に不用意に手で顔を触らぬように注意することで対応する。跳躍種目における着地マットや砂場も同様とする。
- すべり止め(炭酸マグネシウム)利用については、競技者の持ち込みも可とする。
- 助走練習、投てき練習に並ぶ時はソーシャルディスタンスを確保するか、あるいは競技役員が1人ずつ順番に呼び出す。
- 競技者同士の会話は極力避け、待機中はマスクを着用するよう呼びかける。
- 競技役員・補助役員の手旗、パソコン、計測器などの共用は極力避けるが、共用する場合には、使用后、手洗い、手指の消毒、機器の消毒を行う。

○水泳

- 「選手の時間差入場」「待機人数の削減」「人との距離を考慮した目印」「競技役員と選手の入退場動線を分ける」等、密になる状況を避ける対策をとる。
 - 招集所内の椅子の間隔を保ち、対面姿勢とならないように配置する。
 - 招集所・招集所前の待機スペースでは、最少人数での選手待機とする。
 - 更衣室のロッカーの使用は、利用後の消毒が都度可能な場合を除き、使用禁止とする。
 - ドライヤーはエアロゾルが発生する恐れがあるため使用禁止とする。
 - 招集所でもマスクを着用させるが、招集所からプールに出るときはマスクを外して、服内のポケットか袋に入れさせる。(マスクは選手イス・脱衣ボックスに直接置かない)
 - 唾や痰を吐くことは極力行わない。
 - 更衣室の混雑緩和のため、可能な限り水着を着用して来場する。
- <練習時の対応>
- 朝の練習時は、チームごとに「時間帯を分ける」「使用レーンを分ける」など、密な状況を避ける対策をとる。
 - 「各レーン内で待機する場合」「スタート練習で並ぶ場合」は、少なくとも1m以上の間隔を保つ、会話をしない等の指示をする。
 - 選手に対して、泳ぐとき以外のマスク着用を周知する。

○卓球・サウンドテーブルテニス

- 卓球台は十分な間隔を開けて設置する。(4m以上)
- 原則的にボールの消毒は、ボールの品質に悪影響を与えるため行わない。1試合終了事にボールは交換する。
- 卓球台の消毒も品質に悪影響を与える可能性があるため、乾いたタオルでから拭きをする。
- 選手、選手控え用いす、審判席、本部席等については、次亜塩素酸水、70%アルコール、次亜塩素酸ナトリウム(0.05%希釈)、界面活性剤等で各試合終了後に消毒する。
- 選手は、コートに入室する際に必ず消毒をする。
- ゲームごとのチェンジエンドは行わない。
- 卓球台の上で手を拭かない。
- シューズの裏を手で拭かない。
- 握手などの身体を接触させる挨拶は行なわない。

○ポッチャ

- 原則的にボールの消毒は、ボールの品質に悪影響を与えるため行わない。随時、手指消毒や床面の消毒を実施し、触れる人を最小限にする（本人・介助者のみ）等の対応をする。
- 審判員等によるボールの回収には、手袋の着用やトング等を使用する。
- ランプは木製品が主であり、直接的な消毒は品質に悪影響を与えるため行わない。支柱部分や持ち運びの際に触れる金属部分等は随時消毒をする。

第17回神奈川県障害者スポーツ大会開催時の感染防止策 参加者向けチェックリスト

1 参加者が遵守すべき事項

- 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる。
 - ・体調がよくない場合。(例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
 - ・【別紙3】第17回神奈川県障害者スポーツ大会「体調チェックシート」の8つのチェック項目において、1つでも該当する場合。
- マスクを持参すること。
 - ・参加受付時や着替え等、競技を行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること。
 - ・マスク着用による熱中症(※)について注意すること。
※マスク(特に外気を取り込みにくいN95などのマスク)を着用して運動やスポーツを行った場合、十分な呼吸ができず人体に影響を及ぼす可能性がある。また、熱中症のリスクが高くなるので、息苦しさを感じた時はすぐにマスクを外すことや休憩を取る等、無理をしないこと。
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- 他の参加者、主催者スタッフ等との距離【できるだけ2mを目安に(最低1m)】を確保すること。
※障がい者の誘導や介助を行う場合を除く。
- 大会中に大きな声で会話、応援等をしないこと。
- 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと。
- 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、大会事務局に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。
- 競技前後のミーティング等においても、三つの密を避けること。
- 競技会前後での懇親会の開催を控えること。

2 参加者が競技を行う際の留意点

- 十分な距離の確保。
 - ・競技の種類に関わらず、競技をしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離を空けること。(介助者や誘導者の必要な場合を除く)
 - ・競技後は、呼吸が激しくなるため、より一層距離を空けること。
 - ・マスクをしていない場合には、十分な距離を空けるように特に留意をする必要があること。
- 運動・スポーツ中に、唾や痰を吐くことは極力行わないこと。
- タオルの共用はしないこと。
- 飲食については、指定場所以外では行わず、周囲の人となるべく距離を空けて対面を避け、会話は控えめにすること。
- 飲料は自分専用のものを飲み、回し飲みはしないこと。

3 各競技特性における留意点

○フライングディスク

- ディスクを使用する前には、手指をアルコール消毒すること。

○ボウリング

- ボールを拭くタオルは可能な限り各自で準備すること。
- 筆記用具は各自で準備すること。
- 選手はコンソールモニターには触らないこと。(次のゲームへ進む場合は、大会運営スタッフを呼ぶ)
- 競技中もできる限りマスクを着用すること。

○アーチェリー

- 筆記用具等の使いまわしはしないこと。

○陸上

- 競技者同士の会話は極力避け、待機中はマスクを着用すること。
- 投てき器具やすべり止め（炭酸マグネシウム）、着地マット、砂場の使用後は手洗い・洗顔すること。また、試技の前後に手指の消毒を実施し、競技中に不用意に手で顔を触らぬように注意すること。

○水泳

- 泳ぐとき以外はできる限りマスクを着用すること。
- 招集所でもマスクを着用し、招集所からプールに出るときはマスクを外して、服内のポケットか袋に入れること。
- 更衣室の混雑緩和のため、可能な限り水着を着用して来場すること。

○卓球・サウンドテーブルテニス

- チェンジエンドは行わないこと。
- 卓球台の上で手を拭いたりしないこと。
- シューズの裏で手を拭くことはしないこと

○ポッチャ

- 試合の前後で手指の消毒すること。
- ボールに触れる前に手指の消毒すること。

第17回神奈川県障害者スポーツ大会「体調チェックシート」

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、競技会初日の体調まで記入し、受付時に必ずご提出下さい

市町村 団体名		氏名	
年齢		住所	〒 —
連絡先(電話番号)			

症状リスト

- ①平熱を超える発熱 ②咳 ③のどの痛み ④倦怠感(だるさ) ⑤息苦しさ ⑥嗅覚や味覚の異常
⑦その他(具体的症状は各日の欄にご記入ください)

1) 競技会 開催日前7日間までと開催初日の体調を記入してください。主催者チェック欄

記入日	体温	体調	不調の場合の具体的症状 上記 症状リストの番号 ①～⑦をご記入ください。	記入日	体温	体調	不調の場合の具体的症状 上記 症状リストの番号 ①～⑦をご記入ください。
/	℃	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不調		/	℃	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不調	
/	℃	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不調		/	℃	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不調	
/	℃	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不調		/	℃	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不調	
/	℃	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不調		開催当日	℃	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不調	
				/	計測時間 :		

2) 競技会 開催日前7日以内について、以下の質問にお答えください。主催者チェック欄

質問	回答
平熱を超える発熱(おおむね 37 度 5 分以上)	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
咳(せき)、のどの痛みなど風邪の症状	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
だるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難)	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
嗅覚や味覚の異常	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
体が重く感じる、疲れやすい等	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触者の有無	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
同居家族や身近な知人に感染が疑われる方が発生	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
過去7日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし

※ 8つのチェック項目において、1つでも該当する場合は、参加を自粛してください。

第17回神奈川県障害者スポーツ大会開催時の体調不良者等への対応について

大会での体調不良者等への具体的な対応については、次のとおりとする。

<ケース1>【別紙3】「体調チェックシート」の持参を忘れた場合

- ・参加者個人（学校、施設、市町村単位でも可）「体調チェックシート」を忘れたことについて、受付に報告し、実施した結果について報告をする。

<ケース2>受付時の検温で平熱を超える発熱（37.5℃以上）があった場合

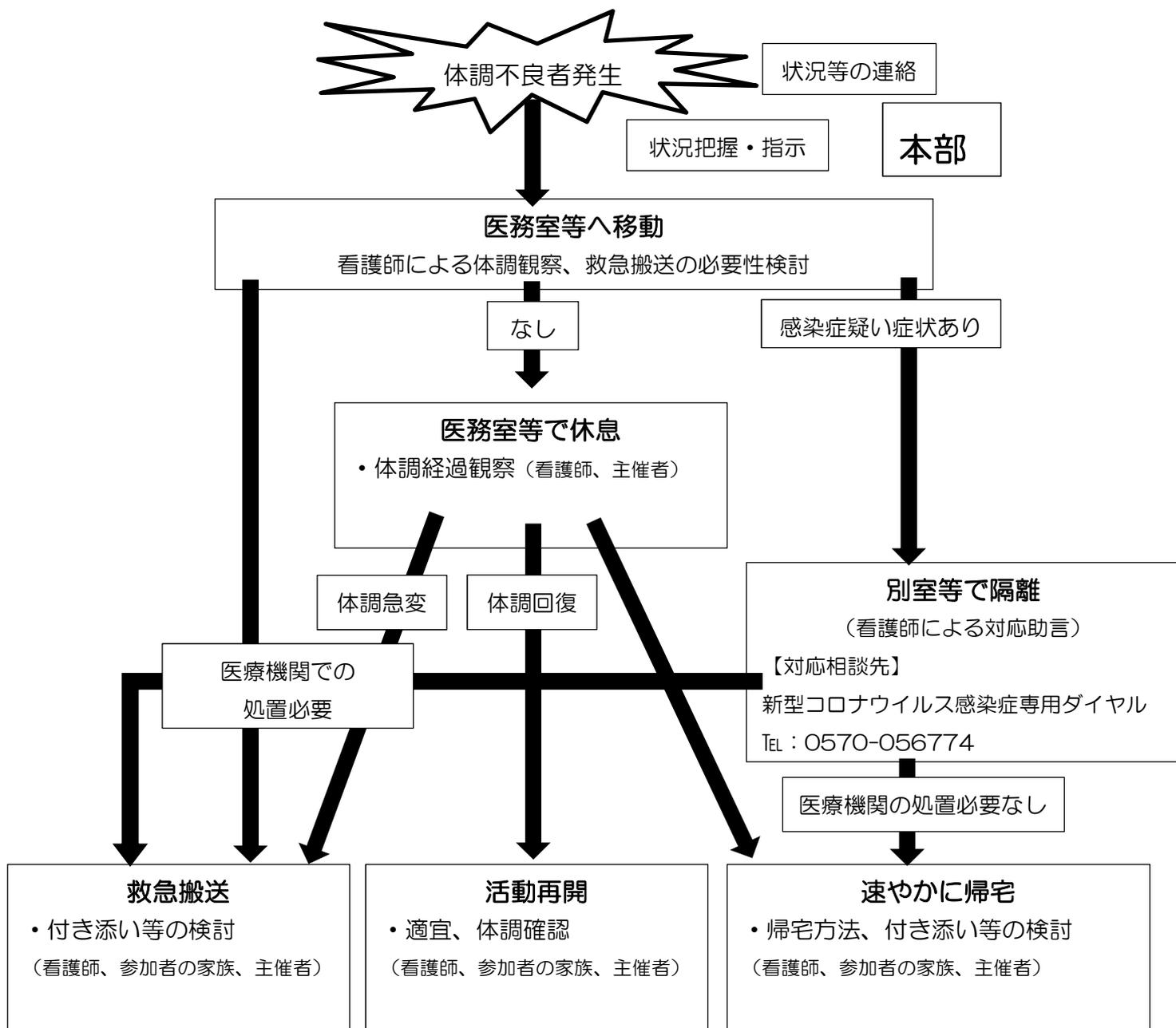
- ・受付から距離を取り、人との接触を制限した場所（別室があれば別室）で待機し、時間をおいて再度検温を実施する。
- ・再度検温を実施し、平熱に戻っていれば参加を認める。
- ・再度検温を実施しても発熱（37.5℃以上）がある場合には、参加することはできない。当該者の帰宅方法（公共交通機関をなるべく避ける）や医療機関への受診、受診結果や経過の連絡について事務局と看護師で検討する。また、当該者と同行してきた選手等の参加等について、事務局と看護師で検討する。

<ケース3>競技中に体調不良者が発生した場合

- ・体調不良者発生後の対応については、【別添1】「体調不良者フローチャート」のとおり対応をする。

※体調不良者発生時を除く事故発生時の対応については、【別添2】「事故発生時の対応フローチャート（体調不良者を除く）」のとおりとする。

体調不良者対応フローチャート



○大会開催可否判断について

体調不良者が発生した後も基本的には、大会開催を継続する。ただし、次の状況となった場合は、主催者が対応を検討する。

- ・新型コロナウイルス感染症が疑われる症状のある者が複数名発生した場合。
- ・その他、感染拡大が懸念される状況となった場合。

事故発生時の対応フローチャート (体調不良者を除く)

